

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした生活が出来ることを目指している。地域のスーパーや薬局等での買い物や、周辺地域での野の花摘み、椎の実採り、野いちご採りなど、地域でできることを主体的に行っている。	○	地域常会との接触を持ち、参加できる地域行事の検討を行っている。又、老人会の勉強会に少しでも関与できるようにしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、終礼、その他諸会議において、利用者への対応が理念に合致しているか、皆で考えている。	○	利用者一人ひとりに対して理念を生かすためには、どのような対応をしていけばよいか更に検討を重ねていく。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域常会の会長さんや地域の福祉員を通して、地域との交流の意志を伝えている。又、役所へ広報誌を置いて、地域の人へ理解してもらうようにしている。	○	地域の人にも広報誌を配布し、ホームの活動内容を知ってもらうようにする。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近接して民家が無く日常的に声掛けできる状況には無いが、散歩等で来られた方々には声掛けをして交流を図っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域常会や老人会の会長さんとの交流の中で、共に行える行事や勉強会の選別を行いながら、地元の人との交流を図ることを目指している。	○	地域の人々を招いた交流が出来ることを更に目指している。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の勉強会の中で、「認知症への対応の仕方」や「高齢者の食事形態」等についてのお手伝いが出来ればと、話し合っている。	○	地域の問題点解決に、少しでもお役に立てればと考えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を通しながらホームにある問題点の把握に努め、改善に取り組んでいる。又、外部評価の意義・目的を職員へ周知している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、忌憚の無い意見を出してもらっている。会議の結果は議事録にして、職員や家族の皆様に内容を確認してもらっている。	○	推進委員に更にホームの実態を知ってもらえるような企画を考えていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ推進委員との接触を行っており、又、町や社協の主催する地域連携のサポーター会議に出席し、勉強会を通してサービスの質の向上や制度への対応を図っている。	○	更なる連携を図っていききたいと考えている。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会を開催し、職員の理解を深めている。	○	利用者、家族にも機会を捕らえ説明していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	諸会議、ミーティング等で高齢者虐待防止の必要性、意義、内容等について話し合い、防止に努めている。	○	職場内専門委員会等を通し、虐待に類すると思われる行為等の洗出し、分類、対策等の活動を更に深めていききたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話は個々に行っており、不 満や苦情はその都度聞き改善に努めている が、全体での懇談会等は設けていない。	○	利用者、家族を含めた懇談会を実施して いきたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	家族が頻繁に面会に来られる時はその都 度、又、減多に来られない時や体調が変化 した時は、電話にて細かに報告をしてい る。 預っている金銭等については、3ヶ 月に1回、家族や本人に報告している。	○	家族へ広報誌を継続発行していく。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが、面会時に家 族との面談の中で意見交換をしている。 又、アンケートにより忌憚のない意見を出 してもらい運営に反映させている。	○	家族会開催についてのアンケートを出し てもらっており方向を出したい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	特に定めていないが、機会あるごとに職 員と様々な問題点について話し合ってい る。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	緊急時には対応できる連絡体制をとって いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、全ての職員が全ての利用者 に対応できるようにしており、離職時等の ダメージを最小限にするようにしている。	○	しかし、個人差があり、全ての利用者 に同様な対応を取れていないのが実情で あり、勉強会等を通しこの差を無くすよ うにしていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては年齢・性別等問わないようにしている。又、基本姿勢として定年まで働いて頂くようにしている。	○	職員一人ひとりに対する個別面談を定期的に行っていく。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による人権教育は行っていないが、利用者の尊厳に対する人権等の確保については、専門委員会、ケアカンファ、朝礼、終礼等を通して行っている。	○	外部講師による人権教育等を早急に実施したい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴、能力に応じた研修を適宜確保している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に福祉関係者の勉強会に参加し、各々が抱えている問題点等に考察を重ね、サービスの質の向上に取組んでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスチェック表によりストレス状況を確認し、状況により面談している。	○	定期的実施していく。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れており、各々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価を行っている。	○	利用者・職員が一丸となることができるテーマを考えていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず、本人の話しやすい状況、雰囲気を作ることに心掛けている。その上で思いや、不安をじっくり聴き、本人の置かれている状況を理解するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず、家族の話しやすい状況、雰囲気を作ることに心掛けている。その上で家族の置かれている状況や困っていることを聴き、今、必要としているものは何か、共に考えていくことに努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、必要に応じたサービスが受けられるように心掛けている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	極力、事前に、本人に訪問して頂き、確認のうえ、本人の意思の下で入居していただくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴からできる事、得意な事を見出し、極力、本人ができる力を発揮できるように支援している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談し、家族の意向を尊重しながら、ケアを行うように心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	”家族の最も大切な人を預っている”というのが基本的なホームの考え方です。職員は、常に利用者と家族の間の外に立ち、お世話をさせて頂くことを心掛けている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を掛けたり、手紙のやり取りを通して馴染みの人たちとの関係が途切れないよう支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が部屋で過ごす時間を極力少なくし、食堂や和室、廊下のソファ等で他の利用者と過ごす時間を増やしたり、皆でできるゲーム等を取入れたりして共に過ごす事ができるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、本人と電話連絡したり、面会したりして関わりを大切にしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取入れ、一人ひとりの生活歴、職歴、病歴、取り巻く環境等をより詳しく調査することにより、本人の思い、生きがい等の核心に触れることができるよう努めている。	○	なかなか思うようには掴み切れないのが現状であり、繰返し状況観察を行い、本人の思いを確実に掴めることができるよう努めていきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取入れ、一人ひとりの生活歴や生活環境等を確実に把握できるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼、終礼、ケアカンファ等を通して、利用者一人ひとりの状況・状態を職員全員で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望をまず聞き、その要望を基本に介護計画を作成し、更に本人に合うように計画の煮詰めを家族と共に行っている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、利用者に急な状態変化が見られたときは、本人、家族及び必要関係者と共に、適宜、見直しを図っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の食事状況・排泄状況や介護計画に基づく記録、気づき事項等については確実に記録するようにしている。又、日々の状況は朝礼や終礼にて申し送りをし、継続介護できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて家族と相談しながら早期の病院受診に努めている。又、定期的な病院受診を行いながら安定した生活が送れるよう心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町主催の文化祭への作品の出展、書道・折り紙・理美容等のボランティアの方々や利用者訪問をして頂いている民生委員の方々等、多くの方々に協力してもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば、それに沿えるよう心掛けている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向があれば、それに沿えるよう心掛けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は有るが、入居後も、本人にかかりつけ医が有れば、基本的には、継続的に医療を受けられるようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医（精神科医）に、必要に応じ相談に乗ってもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員と、連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院側に本人の普段の状況や特徴等を伝えたり、本人を励ましなが、早期退院に繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の今後の方針については家族と相談しながら決めている。	○	今後、体制作りに努めていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の今後の方針については家族と相談しながら決めている。	○	今後、体制作りに努めていきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、本人が今まで使用されていた馴染みの品を持ってこられるようにし、環境の変化によるダメージが最小限になるように心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けや対応については、諸会議や専門委員会等を通して検討を重ねている。又、記録等については事務所のカギのかかる場所に保管している。	○	言葉掛けや対応については、常に前向きに検討を重ねていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時や入浴後の衣類の選択や、行事食等のメニューの選択など、その他、極力利用者の希望を生かせるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月次の行事の他は、ショッピング・入浴・散歩・喫煙・飲酒等、極力、利用者の希望に添うように心掛けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容ボランティアを利用したり、職員が希望によりカットしたり毛染めをしたりしているが、本人の希望のあるときは家族や職員が希望の理美容院へ連れて行ったりしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には食事の準備（野菜洗い、皮むき、下ごしらえ）、盛付け、配膳、後片付け（下膳、食器洗い、拭き）等、無理の無い範囲で作業できるよう心掛けています。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には本人の希望に沿えるよう支援しているが、他の利用者に支障をきたす恐れがあるときは控えるようにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、それに応じて、昼夜共に誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、昼間、夜間と、利用者の希望時間に合わせ入浴支援を行っている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠状況等についてはほぼ把握しており、極力、薬剤を使用せずに安眠できるように心掛けています。しかし、寝つきの悪い場合や不穏時には、和室で安心して寝れるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職歴、趣味等を把握し、日々の生活の中に生かしていけるよう心掛けている。(畑仕事、花摘み、散歩、編物等)	○	利用者への観察を更に深めながら、もっと充実した生活が送れるように努めていきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には小遣い銭を持ってもらい、自己管理をしてもらっている。しかし、自己管理の困難な利用者はショッピング時にお金を渡し、支払いを済ますことが出来るよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中の取組みとして、出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず、ショッピング、散歩、ドライブ等希望により対応していくように心掛けている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	極力外出できるよう心掛けている。家族の居る利用者は家族付き添いで外出されている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望するときには電話できるよう支援している。又、手紙のやり取りについても支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や友達など馴染みの人々がいつでも訪問できるよう、又、ゆっくりすごせるよう心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として拘束の無いケアに取り組んでいるが、やむを得ず拘束を行うようになった場合は、身体拘束マニュアルに従って、家族や本人より同意を得て実施するようにしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるように夜間帯のみ施錠しており、日中は開放している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、さりげなく、状況に応じた所在確認や様子観察を行っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物類は利用者の目の届かない場所に、又、洗剤類は鍵つき倉庫に保管している。	○	裁縫道具等は針などを利用者とともに確認し、保管管理するように努めている。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに基づく勉強会で基礎知識を習得できるようにしている。又、事故発生時やヒヤリハット発生時にはその都度、再発防止の検討を重ねている。	○	新人職員に対して勉強会を実施し、マニュアルを周知徹底していく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を年1回、消防署員の指導のもと行っている。又、正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。	○	マニュアルに基づく勉強会を定期的の実施し、緊急時に備えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度、防災訓練を併設施設とともに行っている。その内、年に1回は消防署立会いの下で総合訓練を行っている。又、外部へ通報できるサイレンを設置し、緊急時には地域の人々の協力を得る事ができるようになっている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況変化時には家族にその状況を伝え、今後のケアの仕方について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の平常時の健康状態を確実に把握しており、体調変化時には速やかに対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬の仕分けを行い、確実に服用できるようにしている。	○	全職員が薬に対する理解をしておらず、勉強会等を通し理解できるようにしていく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、体操等を行い便秘予防に取り組んでいる。(薬物に頼る前に食材の配慮、水分補給、運動不足の解消等の予防に努めている。)		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生に十分配慮している。食後の口腔ケアは習慣化しており、能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のBMI値やアルブミン値を測定し、本人に合った食事内容と栄養バランス、1日の必要水分量を確保している。	○	職員の中に管理栄養士を配置しており、利用者一人ひとりに応じたカロリー計算を出していく等、木目細かな栄養管理を目指していく。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基づく予防対策について勉強会を行い、常に、確認している。又、職員、出勤時、退勤時、外出時の手洗い、うがいを実施しており、利用者の手洗い、うがいを支援している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎日漂白を行っており、料理に使用したまな板は天日乾燥している。冷蔵庫は毎週1度清掃を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、玄関先に植木や花を置き、馴染みやすい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよいホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しはレースのカーテンやすだれで遮光し、採光や換気に注意している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方が出来るような居場所が、確保されている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品々を持ち込むことによりこれまでの生活が継続できるようにしている。又、希望に応じベッドを畳に替え、和室感覚で暮らせるような工夫もしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室内には換気扇やエアコンがあり、室温の調整を行っている。又、最低1日に1回は窓を開放し、換気を行っている。	○	各居室内には乾湿度計を設置し管理している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫としては、バリアフリー、要所への手すりの設置、4ヶ所に分散されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所等がある。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の出来そうな作業を職員と共に行うことにより、確実な作業が出来るようになり、本人の意欲に繋がっていくことを支援している。又、混乱を防ぐ対策も考えている。	○	各居室の入り口に表札を設けたり、トイレの扉に判別しやすい色をつけたりしている。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園で野菜を育てたり、収穫を楽しんだりしている。	○	ウッドデッキをもっと活用していきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは家庭的な雰囲気大切にすため”木の温もり”を重視しました。 玄関周囲の職員手製の竹垣や植木の配置、木製の床・廊下・調度品、更に和室やウッドデッキを配置し、皆様の寛げる空間を作り出しています。 ホームの脇には畑があり、四季折々の野菜を育て、収穫を楽しんでいます。 天気の良い日には園外散歩を楽しみ、野の花を摘んだり、椎の実を拾ったり、又、車でちょっと足を伸ばし、桜・梅・藤・菖蒲の花見や紅葉狩りなどを楽しんでいます。 ショッピングは近所のスーパーや馴染みの店で適宜行っています。 行事としては年初の初詣から年末のクリスマス会まで曆にあわせ企画しており、更に併設の特養ホーム福智園の行事にも参加したりして、変化のある毎日を送ることができるよう工夫しています。 又、急病時に備え、協力病院や福智園の看護師とも連携を取れる体制にしており、安心できる居宅生活を送れるよう体制を整えています。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした生活が出来ることを目指している。地域のスーパーや薬局等での買い物や、周辺地域での野の花摘み、椎の実採り、野いちご採りなど、地域でできることを主体的に行っている。	○	地域常会との接触を持ち、参加できる地域行事の検討を行っている。又、老人会の勉強会に少しでも関与できるようにしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼、終礼、その他諸会議において、利用者への対応が理念に合致しているか、皆で考えている。	○	利用者一人ひとりに対して理念を生かすためには、どのような対応をしていけばよいか更に検討を重ねていく。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域常会の会長さんや地域の福祉員を通して、地域との交流の意志を伝えている。又、役所へ広報誌を置いて、地域の人へ理解してもらおうようにしている。	○	地域の人にも広報誌を配布し、ホームの活動内容を知ってもらうようにする。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近接して民家が無く日常的に声掛けできる状況には無いが、散歩等で来られた方々には声掛けをして交流を図っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域常会や老人会の会長さんとの交流の中で、共に行える行事や勉強会の選別を行いながら、地元の人との交流を図ることを目指している。	○	地域の人々を招いた交流が出来ることを更に目指している。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の勉強会の中で、「認知症への対応の仕方」や「高齢者の食事形態」等についてのお手伝いが出来ればと、話し合っている。	○	地域の問題点解決に、少しでもお役に立てればと考えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を通しながらホームにある問題点の把握に努め、改善に取り組んでいる。又、外部評価の意義・目的を職員へ周知している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、忌憚の無い意見を出してもらっている。会議の結果は議事録にして、職員や家族の皆様に内容を確認してもらっている。	○	推進委員に更にホームの実態を知ってもらえるような企画を考えていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ推進委員との接触を行っており、又、町や社協の主催する地域連携のサポータ会議に出席し、勉強会を通してサービスの質の向上や制度への対応を図っている。	○	更なる連携を図っていききたいと考えている。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会を開催し、職員の理解を深めている。	○	利用者、家族にも機会を捕らえ説明していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	諸会議、ミーティング等で高齢者虐待防止の必要性、意義、内容等について話し合い、防止に努めている。	○	職場内専門委員会等を通し、虐待に類すると思われる行為等の洗出し、分類、対策等の活動を更に深めていききたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話は個々に行っており、不 満や苦情はその都度聞き改善に努めている が、全体での懇談会等は設けていない。	○	利用者、家族を含めた懇談会を実施して いきたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族が頻繁に面会に来られる時はその都 度、又、減多に来られない時や体調が変化 した時は、電話にて細かに報告をしてい る。 預っている金銭等については、3ヶ 月に1回、家族や本人に報告している。	○	家族へ広報誌を継続発行していく。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが、面会時に家 族との面談の中で意見交換をしている。 又、アンケートにより忌憚のない意見を出 してもらい運営に反映させている。	○	家族会開催についてのアンケートを出し てもらっており方向を出したい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	特に定めていないが、機会あるごとに職 員と様々な問題点について話し合っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	緊急時には対応できる連絡体制をとって いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、全ての職員が全ての利用者 に対応できるようにしており、離職時等の ダメージを最小限にするようにしている。	○	しかし、個人差があり、全ての利用者 に同様な対応を取れていないのが実情で あり、勉強会等を通しこの差を無くすよ うにしていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては年齢・性別等問わないようにしている。又、基本姿勢として定年まで働いて頂くようにしている。	○	職員一人ひとりに対する個別面談を定期的に行っていく。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による人権教育は行っていないが、利用者の尊厳に対する人権等の確保については、専門委員会、ケアカンファ、朝礼、終礼等を通して行っている。	○	外部講師による人権教育等を早急に実施したい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴、能力に応じた研修を適宜確保している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に福祉関係者の勉強会に参加し、各々が抱えている問題点等に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスチェック表によりストレス状況を確認し、状況により面談している。	○	定期的実施していく。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れており、各々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価を行っている。	○	利用者・職員が一丸となることができるテーマを考えていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず、本人の話しやすい状況、雰囲気を作ることに心掛けている。その上で思いや、不安をじっくり聴き、本人の置かれている状況を理解するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えたときは、まず、家族の話しやすい状況、雰囲気を作ることに心掛けている。その上で家族の置かれている状況や困っていることを聴き、今、必要としているものは何か、共に考えていくことに努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、必要に応じたサービスが受けられるように心掛けている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	極力、事前に、本人に訪問して頂き、確認のうえ、本人の意思の下で入居していただくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴からできる事、得意な事を見出し、極力、本人ができる力を発揮できるように支援している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談し、家族の意向を尊重しながら、ケアを行うように心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	”家族の最も大切な人を預っている”というのが基本的なホームの考え方です。職員は、常に利用者と家族の間の外に立ち、お世話をさせて頂くことを心掛けている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を掛けたり、手紙のやり取りを通して馴染みの人たちとの関係が途切れないよう支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が部屋で過ごす時間を極力少なくし、食堂や和室、廊下のソファ等で他の利用者と過ごす時間を増やしたり、皆でできるゲーム等を取入れたりして共に過ごす事ができるように支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、本人と電話連絡したり、面会したりして関わりを大切にしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取入れ、一人ひとりの生活歴、職歴、病歴、取り巻く環境等をより詳しく調査することにより、本人の思い、生きがい等の核心に触れることができるよう努めている。	○	なかなか思うようには掴み切れないのが現状であり、繰返し状況観察を行い、本人の思いを確実に掴めることができるよう努めていきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取入れ、一人ひとりの生活歴や生活環境等を確実に把握できるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼、終礼、ケアカンファ等を通して、利用者一人ひとりの状況・状態を職員全員で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望をまず聞き、その要望を基本に介護計画を作成し、更に本人に合うように計画の煮詰めを家族と共に行っている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、利用者に急な状態変化が見られたときは、本人、家族及び必要関係者と共に、適宜、見直しを図っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の食事状況・排泄状況や介護計画に基づく記録、気づき事項等については確実に記録するようにしている。又、日々の状況は朝礼や終礼にて申し送りをし、継続介護できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じて家族と相談しながら早期の病院受診に努めている。又、定期的な病院受診を行いながら安定した生活が送れるよう心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町主催の文化祭への作品の出展、書道・折り紙・理美容等のボランティアの方々や利用者訪問をして頂いている民生委員の方々等、多くの方々に協力してもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば、それに沿えるよう心掛けている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向があれば、それに沿えるよう心掛けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は有るが、入居後も、本人にかかりつけ医が有れば、基本的には、継続的に医療を受けられるようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医（精神科医）に、必要に応じ相談に乗ってもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員と、連携を図っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院側に本人の普段の状況や特徴等を伝えたり、本人を励ましながら、早期退院に繋がるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の今後の方針については家族と相談しながら決めている。	○	今後、体制作りに努めていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の今後の方針については家族と相談しながら決めている。	○	今後、体制作りに努めていきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行う、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、本人が今まで使用されていた馴染みの品を持ってこられるようにし、環境の変化によるダメージが最小限になるように心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けや対応については、諸会議や専門委員会等を通して検討を重ねている。又、記録等については事務所のカギのかかる場所に保管している。	○	言葉掛けや対応については、常に前向きに検討を重ねていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時や入浴後の衣類の選択や、行事食等のメニューの選択など、その他、極力利用者の希望を生かせるように心掛けている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月次の行事の他は、ショッピング・入浴・散歩・喫煙・飲酒等、極力、利用者の希望に添うように心掛けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容ボランティアを利用したり、職員が希望によりカットしたり毛染めをしたりしているが、本人の希望のあるときは家族や職員が希望の理美容院へ連れて行ったりしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には食事の準備（野菜洗い、皮むき、下ごしらえ）、盛付け、配膳、後片付け（下膳、食器洗い、拭き）等、無理の無い範囲で作業できるよう心掛けている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には本人の希望に沿えるよう支援しているが、他の利用者に支障をきたす恐れがあるときは控えるようにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、それに応じて、昼夜共に誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、昼間、夜間と、利用者の希望時間に合わせ入浴支援を行っている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠状況等についてはほぼ把握しており、極力、薬剤を使用せずに安眠できるように心掛けている。しかし、寝付きの悪い場合や不穏時には、和室で安心して寝れるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職歴、趣味等を把握し、日々の生活の中に生かしていけるよう心掛けている。(畑仕事、花摘み、散歩、編物等)	○	利用者への観察を更に深めながら、もっと充実した生活が送れるように努めていきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には小遣い銭を持ってもらい、自己管理をしてもらっている。しかし、自己管理の困難な利用者はショッピング時にお金を渡し、支払いを済ますことが出来るよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中での取組みとして、出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず、ショッピング、散歩、ドライブ等希望により対応していくように心掛けている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	極力外出できるように心掛けている。家族の居る利用者は家族付き添いで外出されている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望するときには電話できるよう支援している。又、手紙のやり取りについても支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や友達など馴染みの人々がいつでも訪問できるよう、又、ゆっくりすごせるよう心掛けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として拘束の無いケアに取り組んでいるが、やむを得ず拘束を行うようになった場合は、身体拘束マニュアルに従って、家族や本人より同意を得て実施するようにしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるように夜間帯のみ施錠しており、日中は開放している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、さりげなく、状況に応じた所在確認や様子観察を行っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物類は利用者の目の届かない場所に、又、洗剤類は鍵つき倉庫に保管している。	○	裁縫道具等は針などを利用者とともに確認し、保管管理するように努めている。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに基づく勉強会で基礎知識を習得できるようにしている。又、事故発生時やヒヤリハット発生時にはその都度、再発防止の検討を重ねている。	○	新人職員に対して勉強会を実施し、マニュアルを周知徹底していく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を年1回、消防署員の指導のもと行っている。又、正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。	○	マニュアルに基づく勉強会を定期的実施し、緊急時に備えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度、防災訓練を併施設とともに行っている。その内、年に1回は消防署立会いの下で総合訓練を行っている。又、外部へ通報できるサイレンを設置し、緊急時には地域の人々の協力を得る事ができるようになっている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況変化時には家族にその状況を伝え、今後のケアの仕方について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の平常時の健康状態を確実に把握しており、体調変化時には速やかに対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬の仕分けを行い、確実に服用できるようにしている。	○	全職員が薬に対する理解をしておらず、勉強会等を通し理解できるようにしていく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、体操等を行い便秘予防に取り組んでいる。(薬物に頼る前に食材の配慮、水分補給、運動不足の解消等の予防に努めている。)		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生に十分配慮している。食後の口腔ケアは習慣化しており、能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のBMI値やアルブミン値を測定し、本人に合った食事内容と栄養バランス、1日の必要水分量を確保している。	○	職員の中に管理栄養士を配置しており、利用者一人ひとりに応じたカロリー計算を出していく等、木目細かな栄養管理を目指していく。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基づく予防対策について勉強会を行い、常に、確認している。又、職員、出勤時、退勤時、外出時の手洗い、うがいを実施しており、利用者の手洗い、うがいを支援している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は毎日漂白を行っており、料理に使用したまな板は天日乾燥している。冷蔵庫は毎週1度清掃を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、玄関先に植木や花を置き、馴染みやすい雰囲気になっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよいホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しはレースのカーテンやすだれで遮光し、採光や換気に注意している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方が出来るような居場所が、確保されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品々を持込むことによりこれまでの生活が継続できるようにしている。又、希望に応じベッドを畳に替え、和室感覚で暮らせるような工夫もしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室内には換気扇やエアコンがあり、室温の調整を行っている。又、最低1日に1回は窓を開放し、換気を行っている。	○	各居室内には乾湿度計を設置し管理している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫としては、バリアフリー、要所への手すりの設置、4ヶ所に分散されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所等がある。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の出来そうな作業を職員と共に行うことにより、確実な作業が出来るようになり、本人の意欲に繋がっていくことを支援している。又、混乱を防ぐ対策も考えている。	○	各居室の入り口に表札を設けたり、トイレの扉に判別しやすい色をつけたりしている。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園で野菜を育てたり、収穫を楽しんだりしている。	○	ウッドデッキをもっと活用していきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと		④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		②数日に1回程度
				③たまに		④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		②少しずつ増えている
				③あまり増えていない		④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが		④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが		④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは家庭的な雰囲気大切にすため”木の温もり”を重視しました。 玄関周囲の職員手製の竹垣や植木の配置、木製の床・廊下・調度品、更に和室やウッドデッキを配置し、皆様の寛げる空間を作り出しています。 ホームの脇には畑があり、四季折々の野菜を育て、収穫を楽しんでいます。 天気の良い日には園外散歩を楽しみ、野の花を摘んだり、椎の実を拾ったり、又、車でちょっと足を伸ばし、桜・梅・藤・菖蒲の花見や紅葉狩りなどを楽しんでいます。 ショッピングは近所のスーパーや馴染みの店で適宜行っています。 行事としては年初の初詣から年末のクリスマス会まで暦のあわせ企画しており、更に併設の特養ホーム福智園の行事にも参加したりして、変化のある毎日を送ることができるよう工夫しています。 又、急病時に備え、協力病院や福智園の看護師とも連携を取れる体制にしており、安心できる居宅生活を送れるよう体制を整えています。